

アースデイグローバルサミット2022  
(地球環境基金助成事業)  
実施報告書



2023年 8月  
アースデイ東京

## 1.アースデイグローバルサミットの目的

地球のことを考えて行動する”をコンセプトに環境問題や社会課題の普及啓発をおこなってきた「アースデイ東京」が主催となり、日本国内外の環境活動団体のネットワーキングを目的として開催するサミットです。グローバルで行われている様々なソーシャルアクションの活動内容及び成功事例を日本国内のNPO・NGOを中心とした環境団体が容易に学び、繋がれる機会を創出することで、国内で環境及び社会課題に取り組む個人、団体の活動をサポートすること目的とします。

## 2.アースデイグローバルサミットのミッション

各地のNPO・NGO等の環境団体及び個人が、エビデンスとオンラインで世界とつながり、ウィズコロナ時代においてもグローバルなつながりを維持し、質の高い学びとネットワーキングを定期的に行うことができる状態をつくる。そのことにより、国内外の団体がつながり理解を深めることで団体の垣根を越えたプロジェクトが立案され、社会実装されていくことを目指します。



# ■アースデイグローバルサミット2022実施概要

## ■アースデイグローバルサミット2022実施概要

実施期間：2022年11月5日（土）開催時間 11:00-17:00

開催場所：上智大学/オンライン

主催：アースデイ東京（地球環境基金助成事業）

共催：アースデイジャパンネットワーク、アースデイ東京ユース

協力：NELIS、weMORI、COCOECO、SOPHIA VEGAN SOCIETY

実施内容：

### 11:00- OPENING SESSION

谷崎テトラ（日本）/キャサリン・ロジャース（アメリカ）/ピーター・バー（アメリカ）

### 11:30- 生物多様性 ～衣食住から考える生物多様性～

[概要]「生物多様性」という言葉を耳にしたことはあっても、外来種問題、海外での森林伐採、気温上昇によるサンゴの白骨化などメディアを通して語られる生物多様性は、一般的には、私たちの生活からはどこか遠いイメージがあるが、生物多様性は、私たちの身近な生活の全てに関わっている。今回のGlobal Summitでは、生物多様性における衣食住とはなにか、海外のユースの取組みなどを学びながら、ユース・市民団体とともに、各カテゴリーの課題やそれぞれのアクションプランの創出をテーマにディスカッションを行いました。

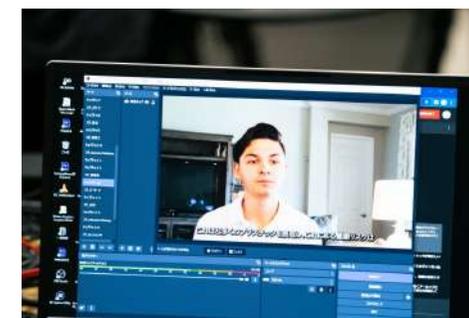
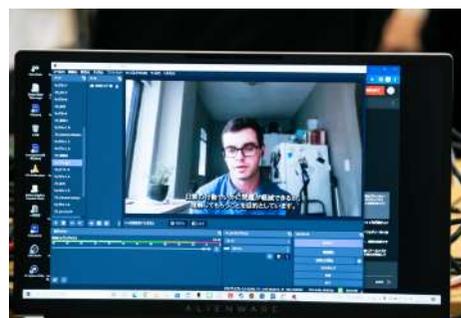
[登壇者] 香坂玲（日本）メリーナ・サキヤマ（ブラジル）ミカ・タン（シンガポール）アースデイ東京ユース（日本）



## 13:30- プラスチック汚染 ～プラスチック条約制定にむけて～

[概要]2050年に海の中のプラスチックごみの量は魚の量を超えるというデータが示されているように、危機的な状況である海洋汚染問題。一刻も早い解決が求められる中、国連環境総会でプラスチック汚染に対処する法的拘束力のある「国際プラスチック条約」を2024年までに制定するために動き出すことが決定。本プログラムでは、条約制定に向けた世界全体の動向を理解し、各地で起きている具体的な事例を学ぶことで、私たちができるアクションを考えるきっかけを創出しました。

[登壇者] エイダン・シャーロン (アメリカ) /ピーター・バー (アメリカ) /志村智子 (日本) /藤井好太郎 (日本：環境省)



## 15:30-気候リテラシー ～気候リテラシー教育の海外事例を学び日本の環境教育をアップデート～

[概要]アースデイ.orgによる高等教育向けのプログラムと10か国の環境教育の情報共有とディスカッションを通して日本国内にとどまらずより広い視野で環境教育を捉え、理想の環境教育を参加者と考えます。前半にはアースデイ.orgのグローバルの大学向けに行うMobilizeUの紹介と10か国のユースによる各国の環境教育を共有し、後半ではグループに分かれて各々が考える理想の環境教育の在り方を考えました。

[登壇者]辻田創 (日本) /アレクサンダー・モンシェフ (ブルガリア) /ジュリアス・ブライトリアス (スイス) /レノア・フェルナンデス (ポルトガル) /ブルーノメリゴ (アルゼンチン) /フモヤン・アドウバホホフ (ウズベキスタン) /カミラ・フィオーレ (イタリア) /ティアゴシャーベス (ブラジル) /チュバシャムス (ドイツ) ヤゴダ・サトウヅカ (ポーランド) /渡邊ひまり (日本) /Ueno gai (日本)



# ■アースデイグローバルサミット2022実施概要



## ■アースデイグローバルサミット2023 フォローアップセッション Vol. 1 「気候変動枠組条約COP27 レポート & セッション」

日時：2023年1月31日（火）19:00-21:00  
会場：オンライン@zoom（事前申込必須）  
主催：アースデイ東京（地球環境基金助成事業）  
参加費：無料

### プログラム内容

- 1, 「COP27の決議内容：市民が知っておくべきポイント」 藤野純一氏（IGESプログラムディレクター）
- 2, 「気候正義、自然を基盤とした解決策・ネイチャーポジティブ」 ガディール・ラヴァデンツ氏（Global Campaign to Demand Climate Justiceグローバルコーディネーター）（ボリビア）
- 3, 「ユースアクション」 黒部睦氏（Fridays For Future Tokyo オーガナイザー）

2022年11月6～18日まで、エジプトのシャルム・エル・シェイクでCOP27が開催されました。COP27では、「損失と損害」、「シャルム・エル・シェイク実施計画」や2030年までの「緩和作業計画」の採択、途上国への資金支援の進捗報告書作成、グローバルストックテイクなどが、主な成果として報道されています。しかし、その交渉の外では、市民の活動が制限されたり、気候正義などNGOやグローバルサウスから大きく声があがりました。今回のセッションでは、決議された内容の理解を深め、グローバルサウス（ボリビア）からの声やユースアクションについて、専門家やNGOからお話しをしていただき理解を深めました。



# ■アースデイグローバルサミット2022実施概要



## ■アースデイグローバルサミット2023 フォローアップセッション Vo2. 「生物多様性条約COP15 レポート&セッション」

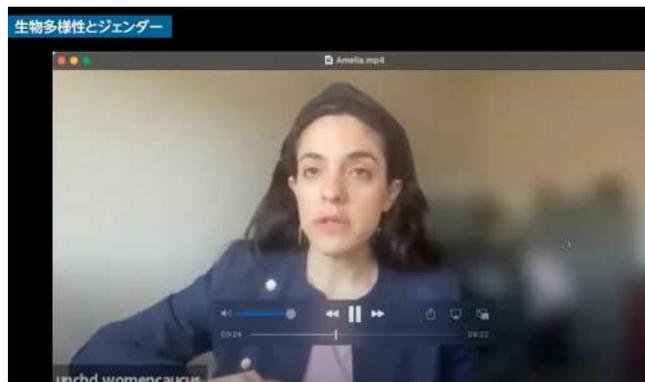
日時：2023年2月27日（月）19:00-21:30  
会場：オンライン@zoom（事前申込必須）  
主催：アースデイ東京（地球環境基金助成事業）  
参加費：無料

### プログラム内容

- 1.生物多様性条約第15回締約国会議と2030年の世界：香坂玲
- 2.生物多様性条約COP15「市民が知っておくポイント」：道家哲平
- 3.ネイチャーポジティブ経済の実現に向けた企業活動：加藤拓
- 4.ユースの提言：メリーナ・サキヤマ
- 5.生物多様性における先住民族とは：三石朱美
- 6.生物多様性とジェンダー：アメリカ・アレグイン
- 7.自然と文化のつながり：秋元真理子



2022年12月7日～19日にかけて、カナダのモントリオールにて、生物多様性条約のCOP15が行われました。今回の最大の目玉は、次の10年目標である「昆明・モントリオール2030年目標」の採択。2050年ビジョンの「自然との共生」を目指して、「生物多様性の損失」だけではなく、自然の回復や保護区を拡大させていくと共に、人権などにも配慮しながら、多岐に渡り交渉が行われました。アースデイ東京では、政府、ビジネス、NGO、ユース、先住民、ジェンダー団体などから参加された方々をお呼びし、様々な視点から「生物多様性条約」を多角的に学ぶ機会と致しました。



# ■アースデイグローバルサミット2022実施概要



## ■アースデイグローバルサミット2023 フォローアップセッション Vo3. 「日本と世界の海」

日時：2023年3月20日（月）19:00-21:00  
会場：オンライン@zoom（事前申込必須）  
主催：アースデイ東京（地球環境基金助成事業）  
参加費：無料



### プログラム内容

- 1,サンゴ礁と気候変動： 安部真理子氏（日本自然保護協会）
- 2,メキシコの海洋状況、沿岸地域の生活： パメラ・タピア氏（メキシコ・生物学者）
- 3,フィリピンのブルーカーボンエコシステムとサービス： ジェイ・マル・D・ゲヴェド氏（フィリピン・東京大学大学院特任研究員）
- 4,東京湾と私たちの食： 宮島一晃氏（遠忠商店）

2022年度最後のオンラインフォローアップセッションは、「日本と世界の海」に焦点を当てました。汚染されている海の生態系は、今どうなっているのか。私たちの生活にどう繋がっているのか。沿岸地域に住む人々の生活はどう変わっているのか。今回も、国内外から専門家の方々をお呼びして、「Think Globally, Act Locally」（地球規模で考え、足元から行動せよ）を念頭に、学びからそれぞれ実践に向けた地域やコミュニティ、個人のアクションを考えていきました。



# ■活動を終えての成果



## 本プロジェクトの上位目標

全国各地のNPO・NGO等の環境団体及び個人が、エビデンスとオンラインで世界とつながり、ウィズコロナ時代においてもグローバルなつながりを維持し、質の高い学びとネットワーキングを定期的に行うことができる状態をつくる。そのことにより、国内外の団体がつながり理解を深めることで団体の垣根を越えたプロジェクトが立案され、社会実装されていく。

## 上位目標にどれだけ近付いたか

- ・ 実地のグローバルサミット、オンライン勉強会を通して、多くの国内外の団体が参加・登壇したことにより、2つのグローバル団体に参加者がメンバーとして参画することとなった。（生物多様性グローバルユースネットワーク（Global Youth Biodiversity Network）、生物多様性女性グループ(Women4Biodiversity)）。今後、そのメンバーによる情報共有などを定期ミーティングにて報告時間を設け、日本での各分野のネットワーク強化に貢献していく。
- ・ 日本では議論がまだ未熟である「環境におけるジェンダー」など、メンバーのグローバル団体参画により、今後、生物多様性国家戦略の実施に貢献をしていく。
- ・ 環境教育を義務教育へ実装するため、日本のClimate Literacy Coalition設立に向けて一部メンバーが活動を始動。
- ・ 立案されたアイデアは、一部、5/22生物多様性の日のイベントにて、実験的に採用。

## 数値データ

- ・ 海外参加国数13カ国
- ・ 国内団体参加数84団体
- ・ イベント視聴者数 303
- ・ 映像コンテンツ数7



## ■活動を終えての成果

### 実績値

- ・10月4日オンラインにて、海外登壇者のプレオンライン勉強会を開催
- ・11月5日上智大学にて、日本で初の「アースデイグローバルサミット2022」を実地にて開催
- ・海外団体13（4団体が実地にて参加）
- ・各テーマごと（オープニング、生物多様性、海洋（プラスチック）汚染、気候リテラシー）の動画公開
- ・アメリカのEarthday.orgに開催報告書提出
- ・全国の学生団体誘致により、実地においてはユースを中心とした積極的なワークショップが、各セッションにて行われた。アイデア創出がなされ、そのアイデアの一部は、5/22「生物多様性の日」のキャンペーンに向けて採用。
- ・Global Youth Biodiversity Network (GYBN：生物多様性グローバルネットワーク)の共同創設者の登壇により、アースデイ東京ユースの一部メンバーが、GYBN Japanの主要メンバーとして参画スタート。
- ・その後のアメリカのアースデイとの継続的なコミュニケーションにより、環境教育を義務教育へ実装する日本のClimate Literacy Coalition設立に向けてプロジェクトがスタート。

### その他の実績

- ・理事の生物多様性条約COP15参加にて、COPのリアルタイム中継を行い、勉強会への布石とした。
- ・一般には理解が困難とされるCOP、また通常日本のメディアでは報道されないCOPでの交渉状況を、国内外の専門家より、環境ビギナー向けにUNFCCC COP27, CBD COP15のオンライン勉強会を開催。
- ・生物多様性のグローバルジェンダーグループに、アースデイ東京からメンバーが参画スタート。

